

アフターフォロー事業 ☆ 物件・講師、募集中!

現在、子どもセンターるーもでは、シェルターを退居した後の子どもへのアフターフォロー事業を始めたいと考えています。子どもシェルターるーもは、秘匿性の観点から、退居後、子どもたちは子どもシェルターを訪ねるとはできませんし、スタッフと会ったり、連絡ととったりすることはできません。そのため、子どもたちが困ったときにふと立ち寄ることのできる場所がなく、アフターフォローが十分にできているとはいえない状況にあります。

そのため、子どもセンターるーもでは、アフターフォロー事業として、子どもたちが退居後にも立ち寄れる場所を作りたいと考えています。

具体的なことはまだ決まっていますが、どこかシェルターとは違う場所で、決まった日時にレクリエーション（料理、ヨガ、ダンス、カウンセリングなどその他いろいろ）を実施し、シェルター入居中からここへ通うことで繋がりを作っておき、退居後、困ったことがあったときなどに立ち寄ってもらうことを考えています。

またシェルター入居中の子どもが通うことで、入居中の子どもたちのストレス発散や規則正しい生活習慣につながるのではないかと思います。

まだまだ構想段階なのですが、私たちが考えているアフターフォロー事業を実現させるためには、場所の確保（物件）、レクリエーションの講師・ボランティア、資金が必要になってきます。

もし、みなさまの中で、物件や講師・ボランティアについてご協力をしていただける方がいらっしゃいましたら、ぜひるーもまでご連絡いただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

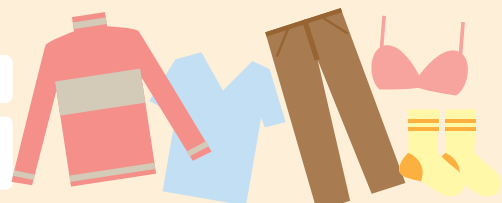
ご支援のお願い

子どもシェルターへの公費援助はまだまだ不十分で、財政基盤はとても脆弱です。ぜひ、こどもたちのために、正会員、賛助会員、法人賛助会員として、私たちの取り組みを支えてください。

衣類と生活用品のご寄付を募集しております。

新品のみ 下着、靴下、パジャマ、タオル、タオルケット、シーツ

洗濯済み 毛布、ズボン、ジーンズ、Tシャツ、ポロシャツ、Yシャツ、トレーナーセーター、ブラウス、カーディガン、ジャンパー、オーバーコート



ご支援の方法

正会員・賛助会員になって、子どもたちと一緒に支えて下さい。

ご寄付をお願いします。金額は問いません。

お寄せいただいたご寄付は、子どもたちのために活かされます。

ボランティアとして参加をお願いします。
シェルターにはたくさんの人の力が必要です。

「子どもセンターるーも」の研修、イベント活動、広報活動など、可能な形でご参加ください。

会員・寄付

正 会 員 ／ 入会金 5,000円 年会費 5,000円
賛 助 会 員 ／ 個人1口 3,000円（年間）
法人1口 10,000円（年間）

振 込 先

銀 行 名 ／ きのくに信用金庫 本店営業部
口 座 番 号 ／ 2629421
口座名義人 ／ NPO法人子どもセンターるーも

銀 行 名 ／ ゆうちょ銀行
口 座 番 号 ／ 14730-16476891
口座名義人 ／ 特定非営利活動法人子どもセンターるーも
（トクビ）コードセンタールーモ

事 務 局

特定非営利活動法人「子どもセンターるーも」
〒640-8044 和歌山市板屋町22
和歌山中央通りビル5階

お問い合わせ先

☎ 073-425-6060
受付時間 10時～17時まで

るーも るーも

特定非営利活動法人 子どもセンターるーも

News Letter

NO. 6

発行日／2016年12月吉日

「子どもシェルター開設から3周年を迎えました」

子ども担当弁護士（コタン）の役割

子どもシェルターるーもに入居した子どもには、必ず「子ども担当弁護士（コタン）」がつきます。コタンは子どもに寄り添い、子どものために働くのですが、今回は具体的にどのようなことをしているのかご紹介させていただきたいと思います。

子どもたちはシェルターのスタッフとともに生活しており、コタンと一緒に生活しているわけではないので、子どもと時間を共有することに限界はあります。しかし、子どもがコタンと話をしたがつっていると聞けばできるだけ早くシェルターに向かい、できる限り時間を共有することを心がけています。

ある子どもは中学3年生で陸上部に所属し、走るという行為がストレスを発散させる方法になっているということがありました。また、その子どもはシェルター入所前の生活でも葛藤を抱えていたうえ、表現をすることがあまり得意ではなく、より一層そのためにストレスが高まっているということもうかがえるところがありました。

子どもが入居した時期は受験期に差し掛かっている時期でもあったことから、普段はスタッフたちが受験勉強をサポートしてくれたのですが、ときにはコタンもその中に入り、励ましながら勉強を進めることもありました。

また、自分の置かれている環境など、子ども自身がしんどい思いをしていた事柄を吐露したいときには、結論として解決策がないこともありますが、まずは子どもの気持ちを受け止めるようにし、弁護士としてできることはないか考えながら耳を傾けていました。

閉鎖的な空間で生活をし続ければ誰しもストレスが溜まるように、子どもたちも例外ではありません。活動的な子どもであればなお一層のことと思われます。しかし、シェルターでは子どもたちの外出を禁じており、例外的にコタンなどと一緒に外出する場合のみ外出が認められています。

子どもがストレスのために落ち着いた生活が送れない場合などには、コタンもストレス発散に付き合うこともあります。先の子どもについても他のコタン、ルーモタンの弁護士の協力なども得てジョギングを一緒にしたこともありました。

子どもシェルターは短期的な入所を前提としているため、次の居場所を確保するための活動もコタンの活動として重要なものです。

子どもたちが次の居場所に向け旅立つに当たり、その後に予想だにしない事態に遭遇するなどして途方にくれてしまわないように、旅立つ子どもに困ったことが起きた場合の連絡先を伝えるようにしています。連絡がないことがよい便りであることもありますが、連絡が可能であれば、退所後も連絡を取り続けていくこともあります。

私の感覚では、コタンは自転車の補助輪のようなものであろうと思います。転倒しそうになった時に倒れないように補助する。自力で走行できるようにあればその役割を終える。そのようなものであろうと思っています。

子どもシェルターを旅立った子どもたちが自転車でどこまでも走り続けられることを願っております。

監事：海堀崇



平成28年度通常総会開催のご報告

平成28年5月18日(水)午後7時より、県民交流プラザ和歌山ビッグ愛にて、平成28年度通常総会を次のとおり開催いたしました。

【決議事項】

第1号議案 役員（理事・監事）選任

審議の結果、役員について下記のとおり選任されました。

今年度から永井眞理子さんに新しく理事に加わっていただくことができました。永井さんは、和歌山県子ども・女性・障害者相談センター次長をつとめられた後、現在は和歌山市子ども総合支援センターにて児童福祉に携わられており、私たちといたしましても、このような経験豊富な方に加わっていただけたことを大変心強く思います。

記

理事

中 川 利 彦	弁護士、和歌山県子どもを虐待から守る審議会会長	笹 尾 恭 子	社会福祉士
桑 原 義 登	臨床心理士、和歌山子どもの虐待防止協会会長	川 口 充 紀	自立援助ホームわだちの家施設長
土 井 智 也	弁護士	永 井 眞理子	和歌山市子ども総合支援センター
松 木 正 恵	元和歌山県子ども未来課長	伊 藤 あすみ	弁護士

監事

溝 上 裕 章	税理士	海 堀 崇	弁護士
---------	-----	-------	-----

【報告事項】

第2号議案 平成27年度事業報告及び活動決算報告

平成27年度の事業報告及び活動決算について報告を行いました。

平成27年度は、子どもシェルターるーもに13名の子どもがやってきてくれました。子どもシェルターるーもがスタートした平成25年10月から数えると、延べ32名(平成28年3月末日現在)の子どもたちを受け入れ、次の居場所に送り出したことになります。

また、シンポジウム「子どもたちの SOS ～今私たち大人にできること～」を開催し、当日は約150名の方にご来場いただきました。たくさんの方に子どもシェルターの役割や子どもを取り巻く現状について考えていただくことができたと思います。当シンポジウムでは、前回のシンポジウムに引き続き和歌山県立桐蔭高校演劇部のみなさんが素晴らしい演劇を披露してくださいました。

ボランティア養成講座を開催し、子どもシェルターの役割や子どもに対する支援などを学んでいただくとともに、ボランティアスタッフさんの募集・養成を行ないました。毎年開催していますが、平成27年度もたくさんの方がご参加くださいました。

第3号議案 平成28年度事業計画及び予算案の報告

平成28年度の事業計画及び予算案について報告を行いました。

引き続き今年度も、子どもシェルターを必要とする子どもたちのために、子どもシェルターるーもの運営を行ないます。

また、子どもたちの支援体制を強化すべく、スタッフの増員や研修を行なうとともに、ボランティア養成講座を開催し、ボランティアスタッフの募集及び養成を行います。

そして、シェルターを退居した子どもたちに対するアフターフォロー事業について検討し、取り組んでいきたいと考えています。

子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 岡山

本年10月1日(土)、2日(日)の二日間にわたって、子どもシェルター全国ネットワーク会議が開催されました。この会議は、子どもシェルターの運営法人や設立準備中の団体が集まって、年1回行われるものです。

本年は、子どもシェルターモモを運営している岡山で開催されました。全参加者が参加する総会や、「運営」「子ども担当弁護士」「スタッフ」と参加者それぞれの立場に分かれて議論し合う分科会等が行われました。いずれも全国各地のシェルターやシェルター準備団体から活発な意見、議論がなされ、充実した会議となりました。

各シェルターによって、課題や改善点は異なる部分もありますが、たくさんの課題を抱えた子どもが入った場合の対応方法や、シェルタースタッフの確保等は多くのシェルターに共通した課題と言えるようです。また、東京のように安定的な運営を長く継続している一部のシェルターを除き、子どもたちがシェルターを退居した後のアフターフォローについても今後の課題と言えます。

来年の会議は沖縄で開催されることが決まりました。次回会議には、るーもとして一歩でも二歩でも課題を乗り越えた姿で臨めるよう、努力していく決意です。

運営委員：中山良平



第16回和歌浦ベイマラソン with ジャズ



平成28年10月23日(日)、今年もるーもチームで地元和歌山のマラソン大会に出場してきました。

気づけば、子どもシェルターるーもが誕生した平成25年からの連続出場となります。

今年は、るーもチームは男女混合チームで12位、個人では、伊藤あすみ理事が6位入賞とみんなで力を合わせてがんばりました。

毎年大会が終わった後は来年に向けて練習しようと言いつつ、やっぱり大会だけが年に1回のランニングとなっている選手もおりますが、来年もみんなで楽しく走りたいと思っています。応援よろしくお願いします。

理事：伊藤あすみ